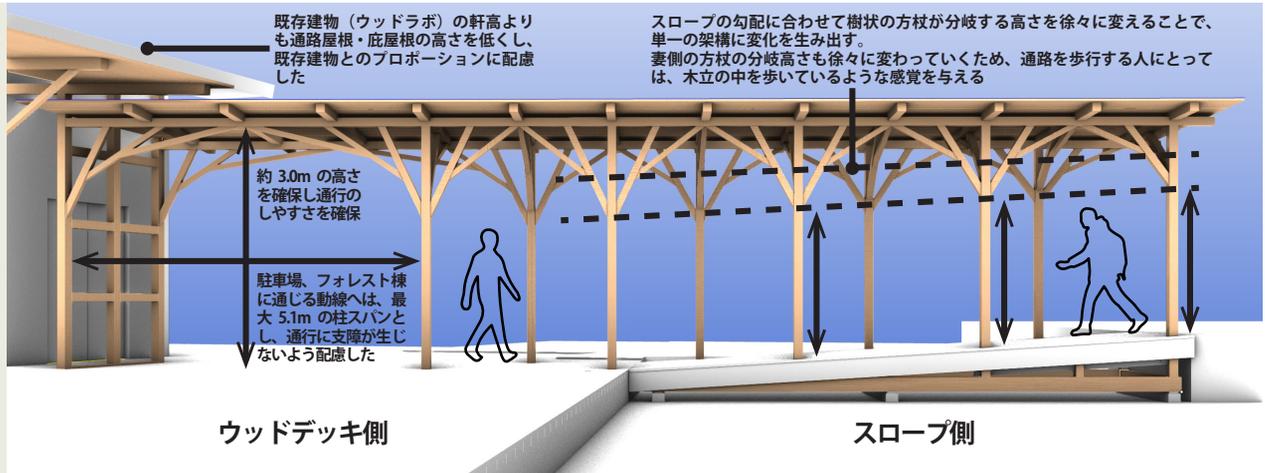


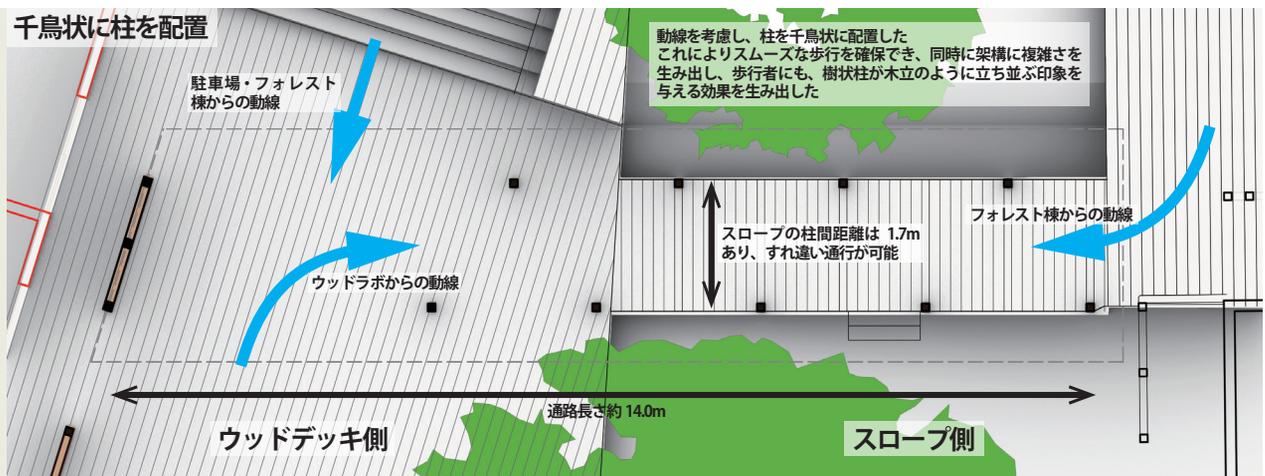
木立の通路

特徴①【樹状柱】



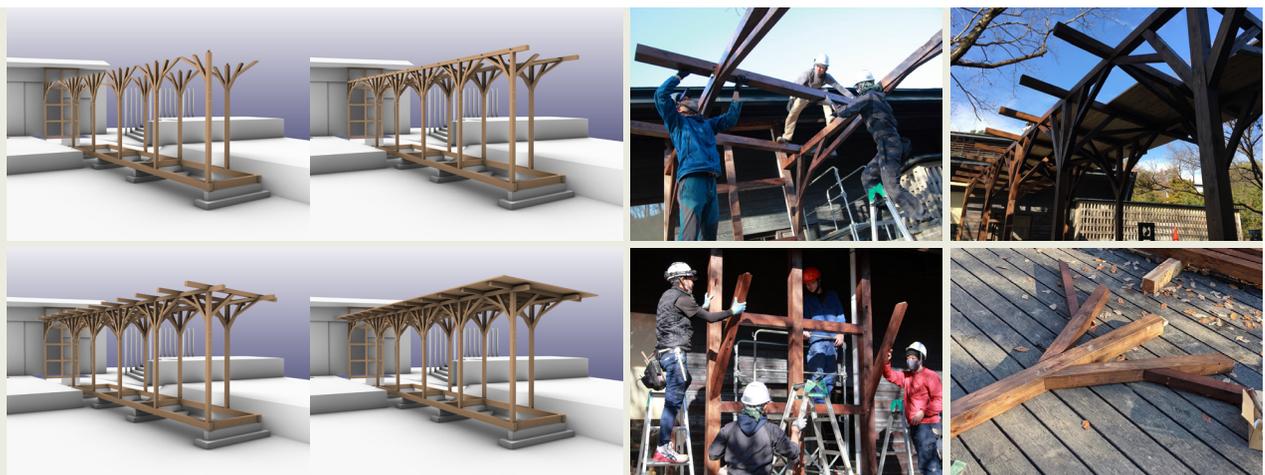
アカデミーの活動に違和感なくなじむようなデザインとするため、「樹状」の形態とした。樹状の形態としたことで、枝（方杖）にも建物を支える役割が生まれる。方杖は上部からの荷重や横からの荷重を柱に伝える役割を担い、「トラス」のような働きを兼ね備えた架構となった。柱 1 本 1 本の方杖の高さを微妙に変えることで、より複雑な架構となり、歩行者にちょっとした驚きと楽しさを与える。

特徴②【動線配慮】



各動線に配慮し、柱を千鳥状に配置した。単純な配置の操作だが、これにより、門型の単一架構にした場合では得られない複雑さとデザイン性を与えることができた。スロープ幅は、既存のスロープ幅を踏襲しつつも、歩行者がすれ違い通行ができる幅を確保した。駐車場・フォレスト棟側からの通行時には、階段からの眺望も考慮して、最大 5m スパンを無柱とし、視線の抜けを確保した。

特徴③【木組み】



伝統的な継手（追掛け大柱継ぎ、台持ち継ぎ、渡りあご）を用いた。方杖の接合部は木構造用ビスを用い強度を確保した。方杖は細く（65mm 角、85mm 角）、かつ 1 本 1 本の角度が違うため、部材製作や建方にあたっては細心の注意を払った。特に、木立の通路と木立の庇の接合部は複雑で、建方時の芯墨出しが難しいため、何度も微調整と確認を行い作業を進めた。